

2025World ROWING Championships

Report 4 (9/22)

9月22日(月)

いよいよ、世界選手権日本代表チームの最初のレースの日が来ました。各クルー今持てる全ての力を出し切るべくレースに挑みました。

W4-予選

予選は組で2着までが着順でFinalAに進み、3位以下はタイムでFinalA若しくはFinal Bに進む新プログレッションで行われた。その新プログレッションのせいもあってか、スタートから各クルートップギアでレースに入る。日本も強豪国相手に良くついているが、徐々に先行されはじめ500mはトップオーストラリアから5.17秒遅れの6位で通過。第2クォーターでも日本は崩れることなく良くレースの流れに食らいつきチャンス进行。1000mの通過は6位ながらも、1位のオーストラリアから7.97秒差と踏ん張っている。第3クォーターに入るとトップ争いが激しさを増し、1位をひた走るオーストラリアにオランダとニュージーランドが肉薄してレースがさらに盛り上がる。日本は5位デンマークに届く位置に必死に食らいつくも1500mの通過は1位オーストラリアから12.95秒差の6位で通過。

ラストクォーター、トップ争いはニュージーランドとオランダがオーストラリアをかわし1位、2位に躍り出て会場も大いに盛り上がる。日本は5位デンマークとの差を詰めるも届かず6位でゴール。良く健闘したがFinal Bに回ることになった。

1300m付近。レースの流れに食らいつく日本(一番出前)。



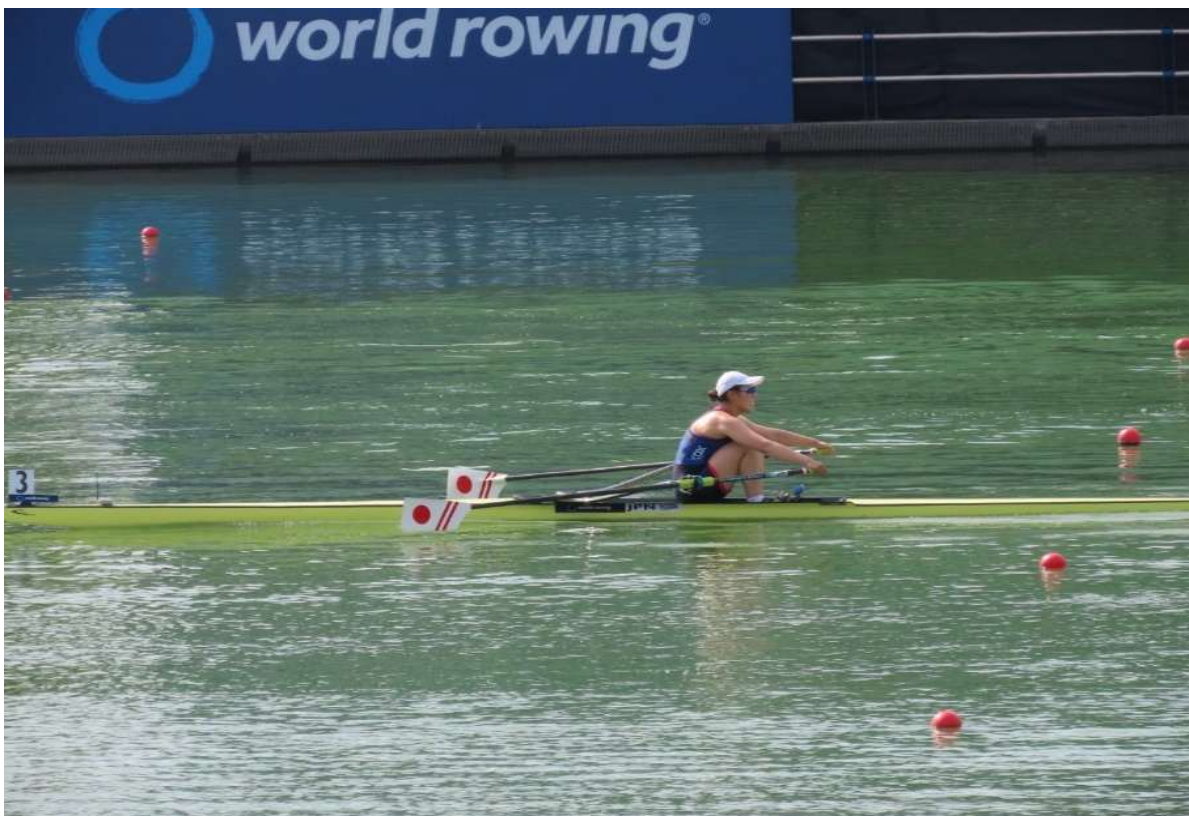
ゴール前、5位デンマークとの差を詰めるべく力漕するW4-クルー。写真左からB 木野田選手(明治安田)、2 榎原選手(デンソーオルカリス)、3 高野選手(関西電力)、S 鈴木選手(NTT 東日本)

W1x予選

予選は組で2着までが着順でSemi FinalA/Bに進み、3位以下はタイムでSemi FinalA/B若しくはFinalCへ、最下位のみ予選後のレースなしという新プログレッションで行われた。スタートから日本の隣のレーンのスペインが飛び出し、反対隣のアイルランドがそれに続く形でレースが始まる。日本も流れに良く続いたが500mの通過は1位スペインから7.21秒差の4位。第2クォーターは1位スペイン、2位アイルランド、そして3位ブラジルと4位日本の差が5秒以上開いて1000mを通過。日本はあきらめずにオランダとの差を徐々に開くも、3位ブラジルとの差がさらに開く。ラストクォーターで必死に追撃するも順位は変わらず4位でゴール。全体タイム16番目（19クルー中）でFinalCに進むことになった。



スタート直後、飛び出すスペイン（奥から2番目）に食らいつくW1x米川選手（トヨタ自動車、奥から3番目）



ゴール手前、力漕するW1x米川選手（トヨタ自動車）。



毎日行われるチームマネージャーミーティング後に、コーチミーティングが行われました。冒頭、ローランド会長のご挨拶ではWorld Rowing目指す方向性を述べられておられました。また、LA2028大会のクラシック、コースタル、パラローイングの大会日程の可能性なども触れ、特にクラシックでは8日の間のレース日程でメダルデーは6日間、ダブルワークの可能性なども示唆されました。レース時間は潮の満ち引きなども考慮して検討しているとのことでした。その他、新たなプログレッションシステムの評価、シーディングの状況なども説明され、参加者との意見交換も行われました。

日本代表クルーのレース予定

W1x FinalC 9月26日(金) 12:11

中国、イタリア、スイス、AIN、日本、オランダ

※AIN…中立な立場の個人参加選手

W4- FinalB 9月26日(金) 13:45

デンマーク、カナダ、オーストラリア、アイルランド、フランス、日本

ご声援よろしくお願い申し上げます！